

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2013年第19週  
(5月6日～5月12日)

- \* 2013年5月15日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は月報告(2013年4月)の疾患及び感染症豆知識  
「ウエストナイル熱」も記載しています。
- \* 感染症法施行規則の一部改正により、平成25年5月6日より「鳥インフルエンザ(H7N9)」が全数把握対象疾患として、新たに追加指定されました。1ページの「全数把握対象疾患報告数」をご覧ください。

平成25(2013)年5月16日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年19週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	56	75	57	48	1,331	316	8,715
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢		1			10	3	43
	腸管出血性大腸菌感染症	1	4		1	24	7	253
	腸チフス	1			2	12	2	25
	パラチフス	2			1	9	1	24
四類	E型肝炎	1				17		48
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	2		1	10	1	59
	エキノコックス症							7
	黄熱							
	オウム病					2		4
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱	1				1		1
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3							9
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					2		6
	つつが虫病						1	45
	デング熱	3	1	1		14	2	51
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱							3	
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					4		15
	野兔病							
	ライム病							1
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症			1		20	6	232
	レプトスピラ症							3
	ロッキー山紅斑熱							
2013/5/15集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

\*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

### ( 全数把握対象疾患のコメント・一類～四類 )

#### 〈二類感染症〉

**結核 48件** 肺結核 27件、その他の結核 7件、肺結核及びその他の結核 3件、無症状病原体保有者 10件、疑似症 1件、年齢は10歳未満 3件(5歳未満 2件)、20代 2件、30代 5件、40代 4件、50代 5件、60代 7件、70代 11件、80代 8件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 48件であった。

#### 〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 1件** 患者、血清型・毒素型はO157 VT2、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

**腸チフス 2件** 患者 2件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地はシンガポール 1件、バングラデシュ 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

**パラチフス 1件** 患者、年齢は50代、推定感染地はカンボジア、推定感染経路は経口感染であった。

#### 〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年19週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	8	4	2	73	6	344
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	3			25	2	87
	急性脳炎 *1	1	2			20	3	159
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			5	1	59
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			2	2	12	4	74
	後天性免疫不全症候群	13	8	7	11	155	13	485
	ジアルジア症		2	1		9	1	28
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2			1	1	4	2	15
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2	1		1		3		4
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2	3	4	3	4	17	33	189
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3							2
	先天性風しん症候群					1		5
	梅毒	8	14	5	5	134	11	360
	破傷風	1				3		32
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	5	2	26
	風しん	159	177	93	103	2,023	587	6,725
	麻しん		3	1	2	40	6	124
2013/5/15集計								

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

\*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

\*3 2013年4月1日より指定が解除された。

### （全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 2件** 腸管 2件、年齢は20代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は異性間性的接触 2件であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件** A群 1件、B群 1件、年齢は5～9歳 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、その他(不明) 1件であった。

**後天性免疫不全症候群 11件** AIDS 4件、無症候キャリア 5件、その他 2件、AIDS患者の年齢は20代 1件、30代 1件、60代 1件、70代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 1件、30代 2件、40代 3件、60代 1件、推定感染地は国内 9件、国内又は中国 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 10件(同性間 8件、異性間 2件)、不明 1件であった。

**侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件** 血清型は未実施、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、ヒブワクチン接種歴は1回目から4回目まで接種済みであった。

**侵襲性肺炎球菌感染症 4件** 血清型は未実施 4件、年齢は20代 1件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、その他(不明) 2件、肺炎球菌ワクチン接種歴は接種なし 3件、不明 1件であった。

**梅毒 5件** 早期顕症梅毒Ⅰ期 2件、早期顕症梅毒Ⅱ期 3件、年齢は 20代 2件、30代 2件、40代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は同性間性的接触 5件であった。

**バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件** 遺伝子型は*vanA*、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は接触感染であった。

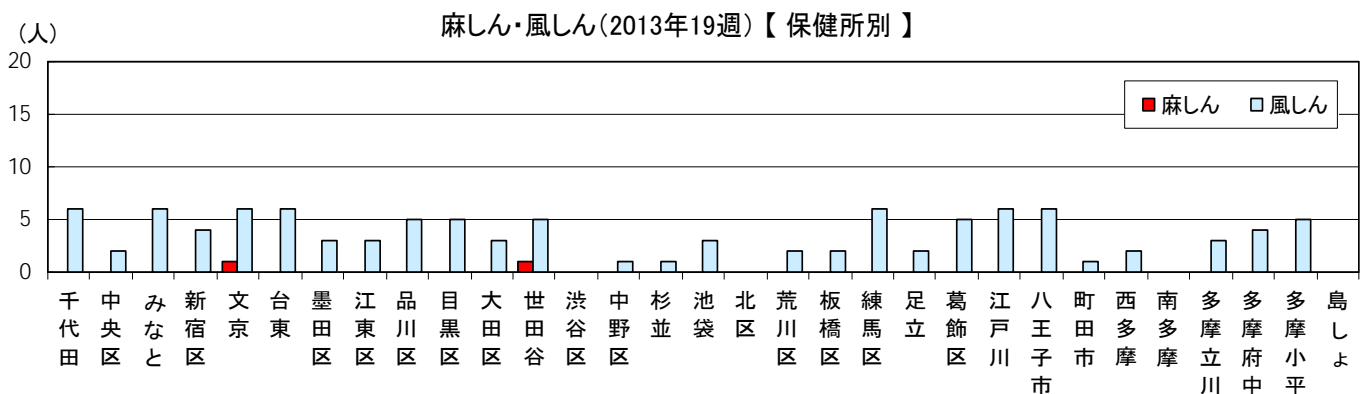
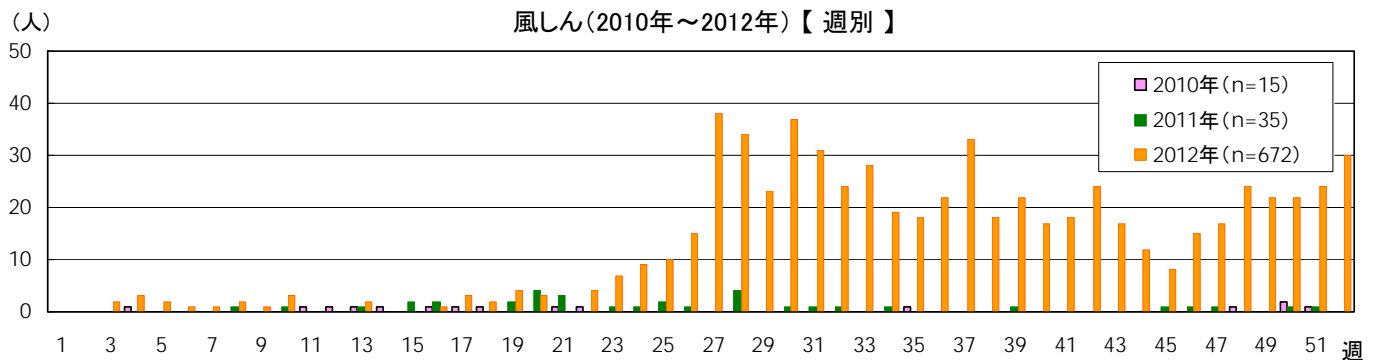
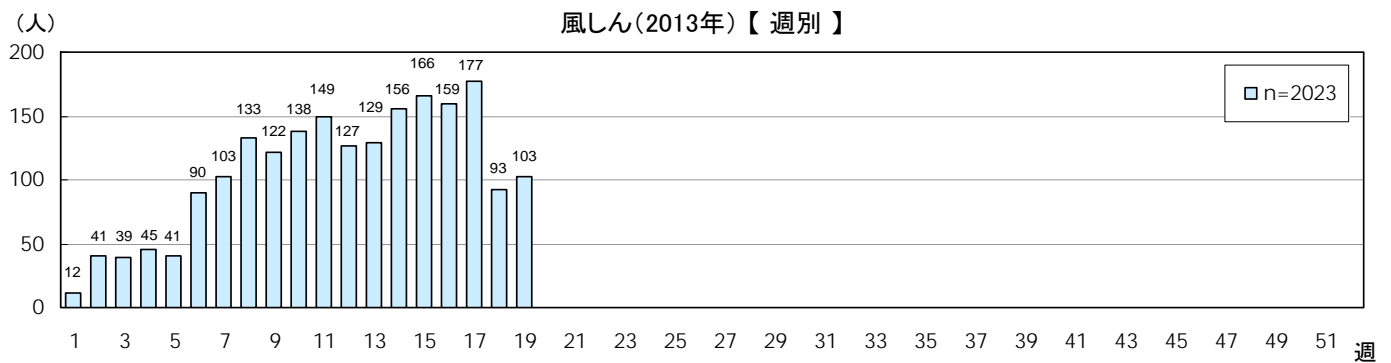
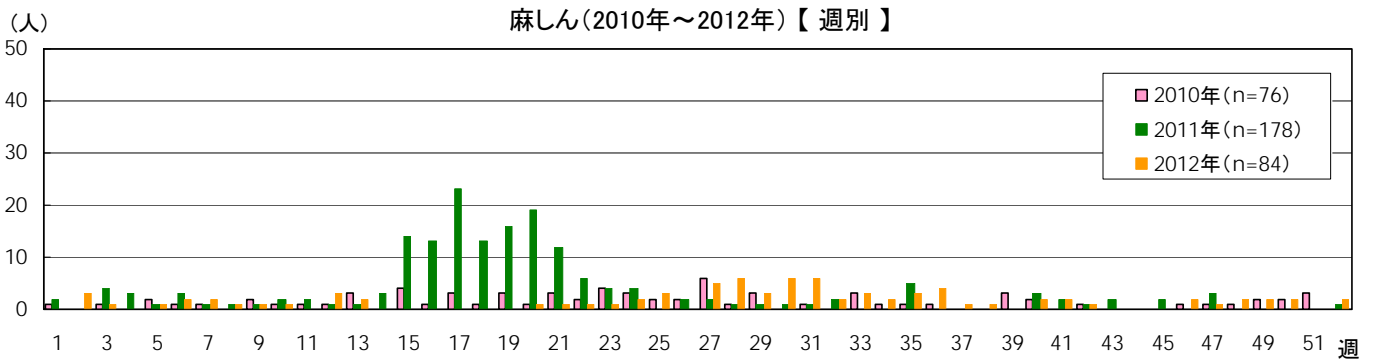
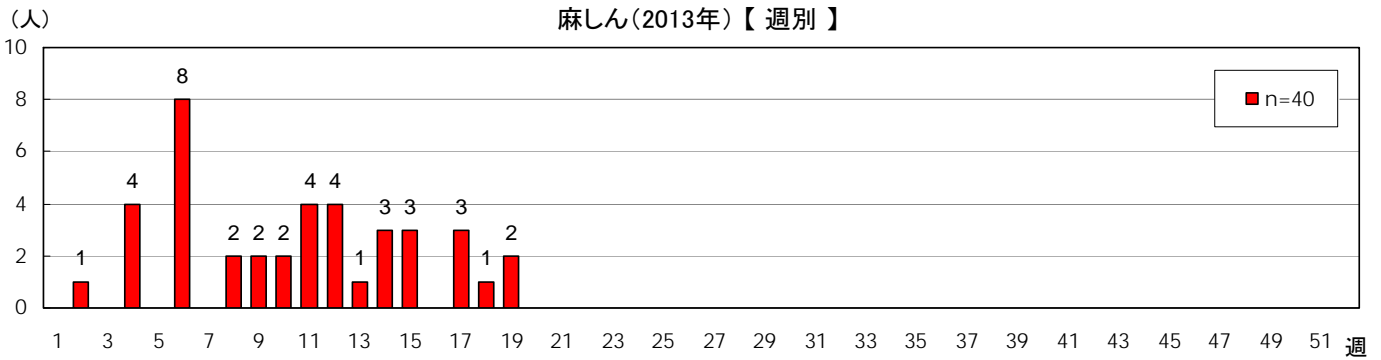
**風しん 103件** 検査診断例 71件、臨床診断例 32件、年齢は10歳未満 4件(5歳未満 3件)、10代 7件、20代 23件、30代 42件、40代 18件、50代 7件、60代 2件、推定感染地は国内 103件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 36件、接触感染 17件、飛沫・飛沫核感染又はその他(不明) 2件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、その他(不明) 47件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 13件、接種なし 28件、不明 62件であった。

**麻しん 2件** 臨床診断例 2件、年齢は5歳未満 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、接種なし 1件であった。

※ 第17週で報告のあった〔五類〕風しん 1件は削除された。

※ 2012年第25週該当分として〔二類〕結核 1件、2013年第17週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件、梅毒 1件、第18週該当分として〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件、風しん 3件の追加報告があった。

# 全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



# 定点把握対象疾患 報告数 2013年19週

定点種別	対象疾患	2013年					報告医療機関数	定点医療機関数
		16週	17週	18週	19週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	36	32	19	22	0.08	260	264
	咽頭結膜熱	92	116	67	141	0.54		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	781	817	393	632	2.43		
	感染性胃腸炎	2,186	2,336	1,295	1,968	7.57		
	水痘	176	220	152	342	1.32		
	手足口病	33	37	23	33	0.13		
	伝染性紅斑	47	44	34	52	0.20		
	突発性発しん	192	218	112	168	0.65		
	百日咳			1	3	0.01		
	ヘルパンギーナ	7	14	12	19	0.07		
	流行性耳下腺炎	38	40	30	52	0.20		
	川崎病(注1)	5	3	3	4	0.02		
	不明発しん症(注1)	25	19	16	30	0.12		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	391	428	311	263	0.64	412	419
眼科	急性出血性結膜炎						38	39
	流行性角結膜炎	20	21	13	17	0.45		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2	2	1			25	25
	無菌性髄膜炎	1	5	2	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	14	17	12	4	0.16		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)				2	0.08		
	インフルエンザ入院(注4)		5	1	1	0.04		

2013/5/15集計

- (注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。  
 (注2) 鳥インフルエンザを除く。  
 (注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。  
 (注4) 2011年36週より開始

## (今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は増加した。
- ・ 不明発しん症の定点当たり報告数は増加した。

## (小児科・内科定点医療機関からのコメント)

### 港区

- ・ 感染性胃腸炎13名中、ロタウイルス 2名。

### 台東区

- ・ 近くの保育園、小学校にて水痘が流行中。

### 世田谷区

- ・ アデノウイルス 1名。
- ・ ロタウイルス 2名(0歳児)。
- ・ 風しん1名(30代)。溶連菌感染症が増加しています。

### 豊島区

- ・ ヒトメタニューモウイルス感染症 9名。ロタウイルス腸炎 1名。

### 荒川区

- ・ クレブシエラ・オキシトカ(+)
- ・ アデノウイルス咽頭炎 7名、感染性胃腸炎 10名(ロタウイルス 9名、病原性大腸菌O125 1名)、ヒトメタニューモウイルス 2名、マイコプラズマ肺炎 1名。
- ・ 病原性大腸菌O6、O152、サルモネラO4群、クロストリジウム・ディフィシル 各1名。

### 板橋区

- ・ 便アデノウイルス陽性 2名。病原大腸菌O1、O25 各1名。

### 足立区

- ・ アデノウイルス感染症、胃腸炎 8か月児。
- ・ 伝染性紅斑の成人例は子から感染した母親。

### 葛飾区

- ・ ロタウイルス胃腸炎(10か月児)。
- ・ アデノウイルス扁桃炎 3名(10か月児 1名、1歳児 2名)。

### 八王子市

- ・ アデノウイルス咽頭炎(1歳児)。アデノウイルス胃腸炎(9か月児)。
- ・ アデノウイルス腸炎(0歳児)、ノロウイルス腸炎(2歳児)。

### 多摩小平

- ・ ロタウイルス 3名、マイコプラズマ肺炎疑い 1名。
- ・ ロタウイルス腸炎 15名、病原性大腸菌 7名、アデノウイルス腸炎 6名、ヒトメタニューモウイルス 17名。
- ・ 8歳児、便潜血あり。

※「定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント」は15ページに記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年19週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	6			20	7	3		5	1		
～1歳	7	16	3	167	7	1		58		3	
1歳	5	35	15	287	37	5	3	90		3	2
2歳	1	14	29	205	54	6	2	11	1	3	
3歳	1	22	66	204	66	5	6	4		1	2
4歳	1	19	78	170	58	7	10			3	9
5歳		15	67	141	48	1	7			1	9
6歳		5	76	102	25	2	11			1	10
7歳		2	66	94	16		7				7
8歳		1	59	80	15	1	3			1	5
9歳	1	2	45	65	4	2	1				2
10～14歳		6	83	190	4					1	4
15～19歳			3	34							
20～29歳		4	42	209	1		2		1	2	2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	22	141	632	1,968	342	33	52	168	3	19	52
先週比	3	74	239	673	190	10	18	56	2	7	22

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月		2								
～1歳	1	5	3							
1歳	1	11	5							
2歳		4	8					1		
3歳		1	14					1		
4歳	2	2	19							
5歳		1	13		1					
6歳			14		1					
7歳		1	27							
8歳			13					1		
9歳		1	13		1			1		
10～14歳		2	48							
15～19歳			13							
20～29歳			15		3					
30～39歳			21		5					
40～49歳			25		4					
50～59歳			8		1					
60～69歳			4				1			
70～79歳					1				2	
80歳以上										1
合計	4	30	263		17		1	4	2	1
先週比	1	14	-48		4	-1	-1	-8	2	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年19週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				5.33	0.67					
中央区			1.33	4.00	1.33		0.67	0.33		
みなと	0.33	1.50	1.67	7.00	1.33		0.17	1.00		0.17
新宿区	0.13		1.38	6.00	0.50			0.50		
文京		0.50	1.00	2.50	0.50			0.75		
台東			3.75	8.50	3.25	0.25		0.50		
墨田区		0.20	1.60	1.40	0.80		0.20	1.60		
江東区	0.25	0.25	2.13	10.38	2.38	0.13	0.13	0.75	0.13	0.13
品川区	0.25	0.63	1.50	7.75	0.38	0.25		0.63		0.13
目黒区		0.20		2.80	1.60	0.20				
大田区	0.38	0.85	3.62	10.08	1.46	0.08	1.08	0.85	0.08	
世田谷	0.13	0.38	2.44	9.75	0.94		0.31	0.63		
渋谷区	0.25	0.25	0.25	7.25	1.75	0.75		0.50		
中野区	0.14		1.29	4.43	0.43		0.14	0.43		
杉並		0.40	1.60	6.60	0.90	0.10		0.90		0.10
池袋		0.60	0.80	5.00	0.40			0.40		0.60
北区		0.14	1.00	6.86	0.71		0.14	0.57		
荒川区		0.75	2.25	12.00				0.50		
板橋区		0.33	0.78	3.56	0.56	0.11		0.56		
練馬区	0.08	1.00	3.17	7.75	2.25	0.17		0.67		0.08
足立		0.75	1.42	8.50	1.58		0.58	0.42		0.33
葛飾区		0.38	1.25	7.50	2.88	0.13		0.25		0.13
江戸川		1.08	3.33	8.67	1.42	0.25	0.17	0.25		
八王子市	0.09	0.18	7.00	10.91	2.55	0.64	0.82	0.45		0.09
町田市	0.13	0.25	8.63	18.50	2.50	0.13	0.38	0.88		0.25
西多摩		0.50	1.38	4.63	1.00			0.25		
南多摩		0.33	2.11	8.56	1.78	0.11	0.33	0.67		0.11
多摩立川		0.43	1.64	5.64	1.14	0.07	0.07	0.36		
多摩府中	0.10	0.71	3.38	6.33	1.33	0.24	0.05	1.05		0.10
多摩小平	0.07	1.33	2.47	8.07	0.53	0.07		1.33	0.07	
島しょ										
東京都	0.08	0.54	2.43	7.57	1.32	0.13	0.20	0.65	0.01	0.07



定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田	0.33			0.75							
中央区	0.33			1.40		1.00					
みなと				0.33							
新宿区		0.13		0.33							
文京				0.43		1.00					
台東				1.00							
墨田区	0.20			1.63							
江東区			0.38	1.54		1.00					
品川区				0.25							
目黒区				0.25		1.00					
大田区	0.15	0.08	0.31	0.50		1.50					
世田谷			0.19	1.00		1.00					
渋谷区				0.14						2.00	
中野区				0.18							
杉並	0.60			0.25							
池袋	0.20			0.25							
北区				0.64							
荒川区		0.25	0.25	1.71							
板橋区	0.11			0.57		0.50					
練馬区	0.50		0.25	0.30		0.50					
足立	0.08		0.08	1.16		2.00					
葛飾区	0.25		0.13	1.23					1.00		
江戸川	0.33	0.08		0.16		0.50					
八王子市	0.64		0.45	0.61					1.00		
町田市	0.25		0.25	0.23							
西多摩	0.50			0.43		1.00					
南多摩	0.56			0.36							
多摩立川	0.21		0.07	0.35							
多摩府中	0.19		0.19	0.88							
多摩小平	0.07		0.13	0.83				0.50	1.00		0.50
島しょ											

東京都	0.20	0.02	0.12	0.64		0.45		0.04	0.16	0.08	0.04
-----	------	------	------	------	--	------	--	------	------	------	------

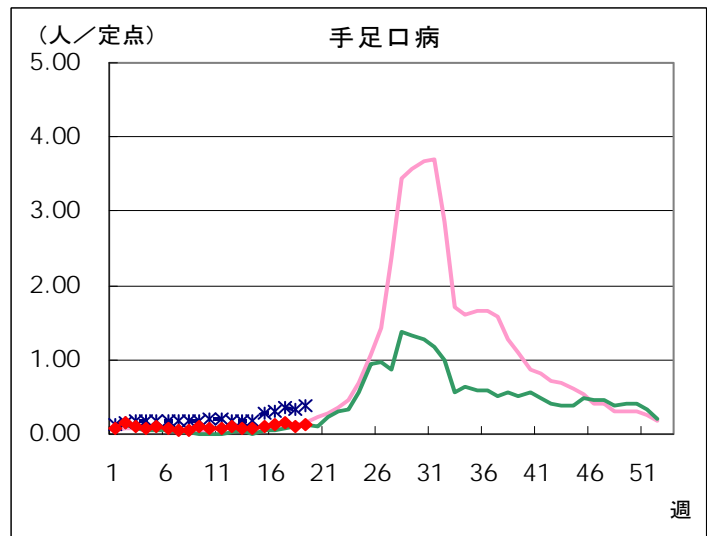
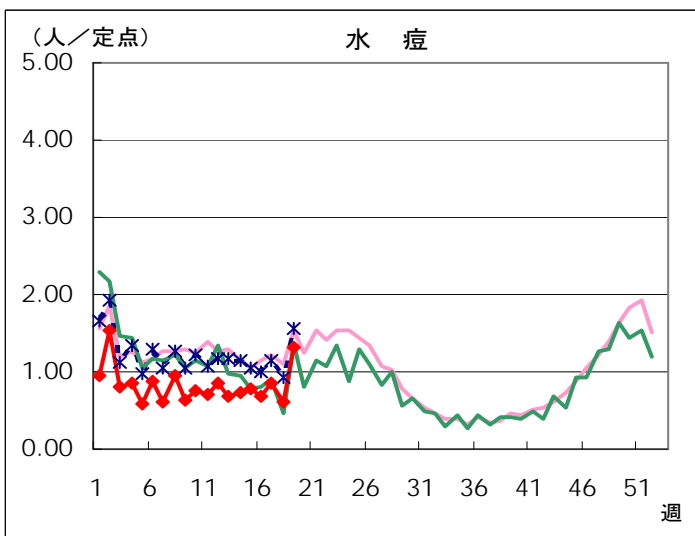
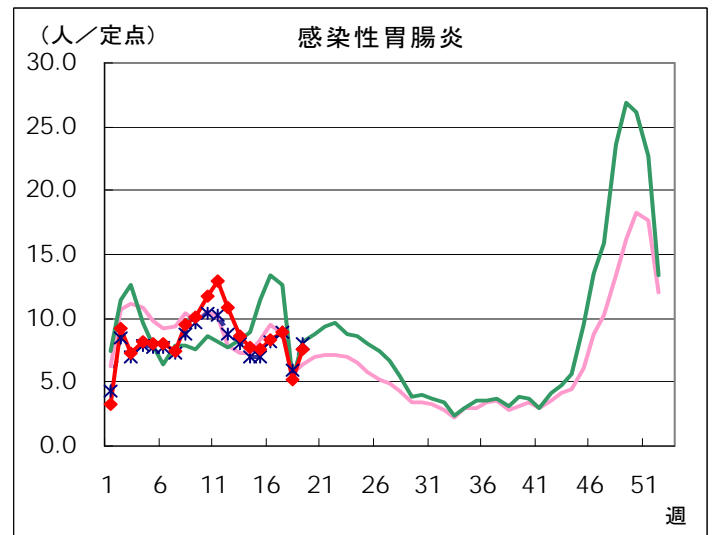
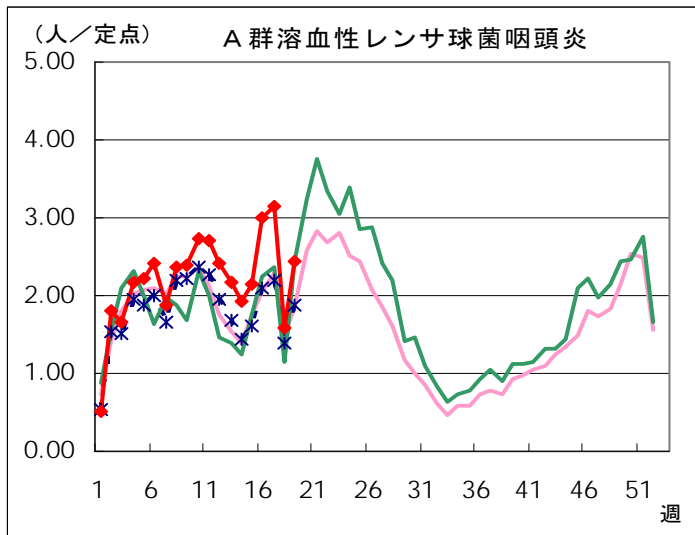
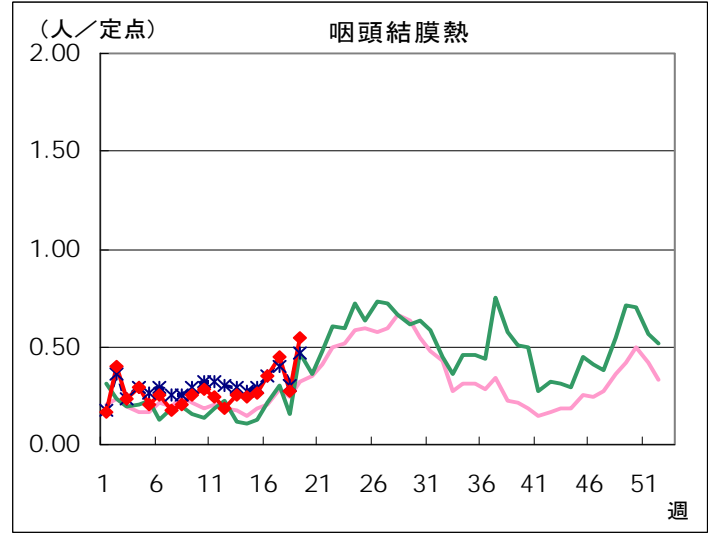
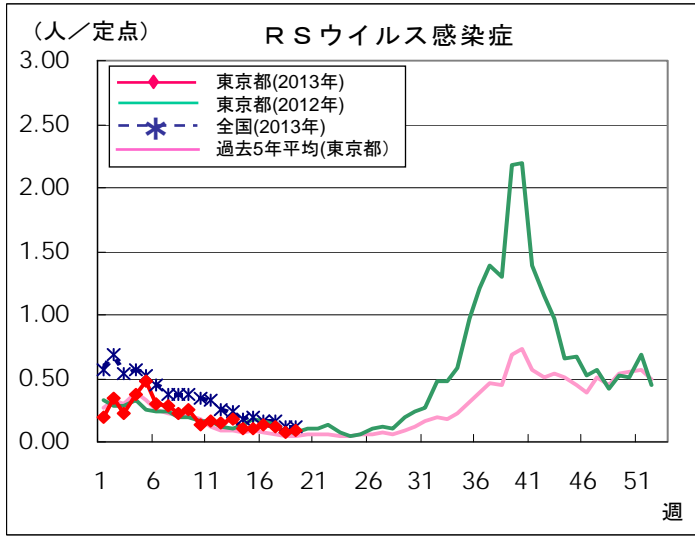
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年19週

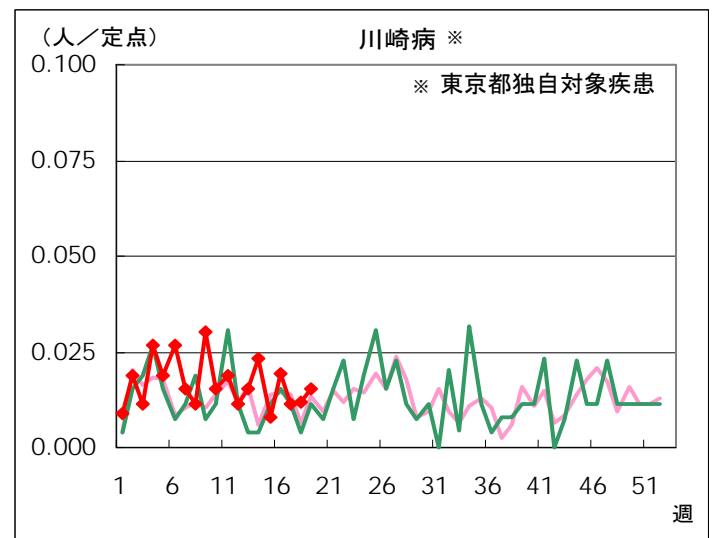
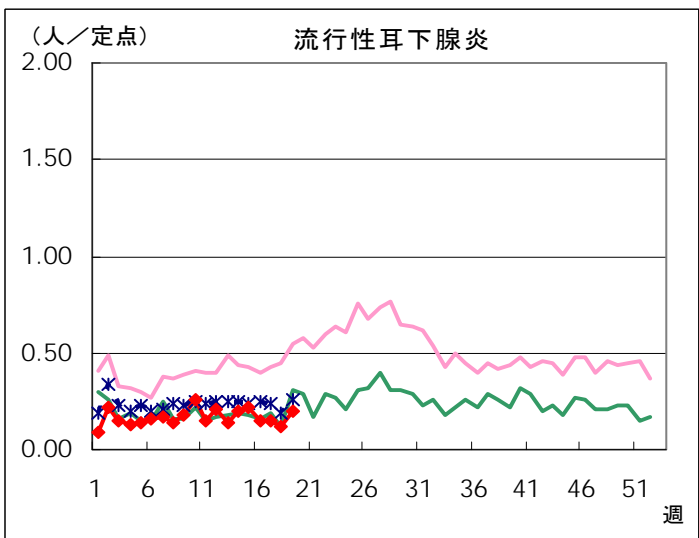
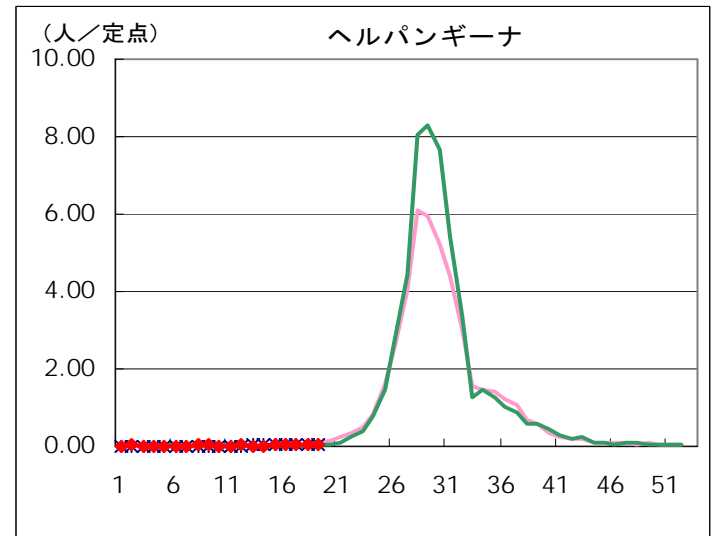
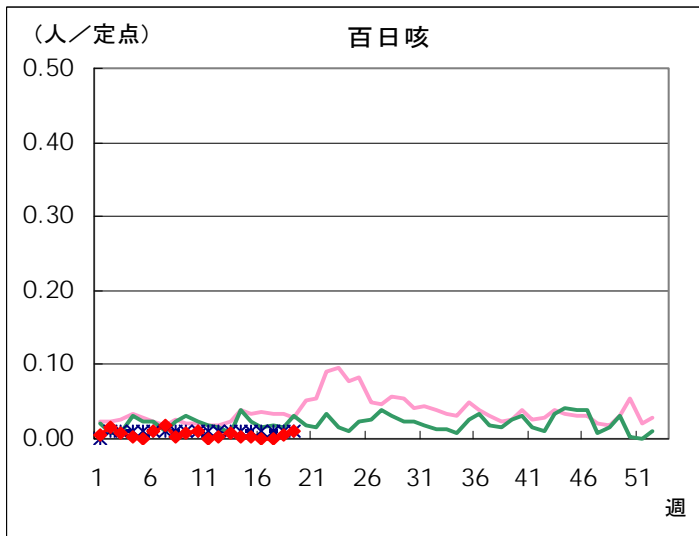
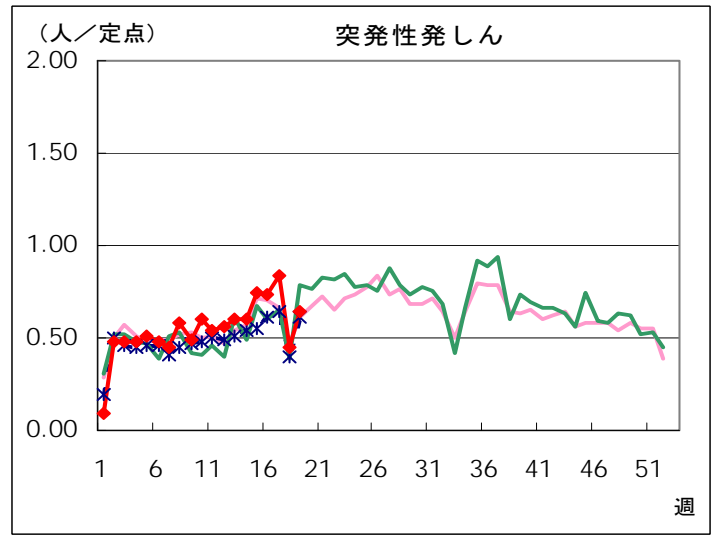
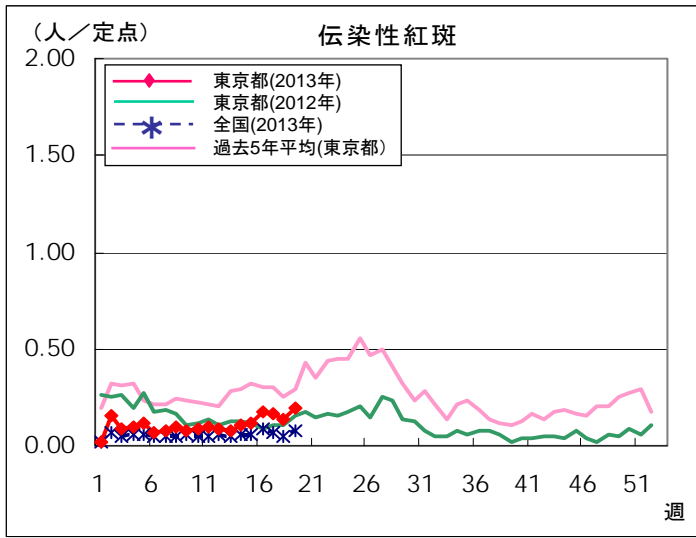
定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				16	2					
中央区			4	12	4		2	1		
みなと	2	9	10	42	8		1	6		1
新宿区	1		11	48	4			4		
文京		2	4	10	2			3		
台東			15	34	13	1		2		
墨田区		1	8	7	4		1	8		
江東区	2	2	17	83	19	1	1	6	1	1
品川区	2	5	12	62	3	2		5		1
目黒区		1		14	8	1				
大田区	5	11	47	131	19	1	14	11	1	
世田谷	2	6	39	156	15		5	10		
渋谷区	1	1	1	29	7	3		2		
中野区	1		9	31	3		1	3		
杉並		4	16	66	9	1		9		1
池袋		3	4	25	2			2		3
北区		1	7	48	5		1	4		
荒川区		3	9	48				2		
板橋区		3	7	32	5	1		5		
練馬区	1	12	38	93	27	2		8		1
足立		9	17	102	19		7	5		4
葛飾区		3	10	60	23	1		2		1
江戸川		13	40	104	17	3	2	3		
八王子市	1	2	77	120	28	7	9	5		1
町田市	1	2	69	148	20	1	3	7		2
西多摩		4	11	37	8			2		
南多摩		3	19	77	16	1	3	6		1
多摩立川		6	23	79	16	1	1	5		
多摩府中	2	15	71	133	28	5	1	22		2
多摩小平	1	20	37	121	8	1		20	1	
島しょ										
東京都合計	22	141	632	1,968	342	33	52	168	3	19

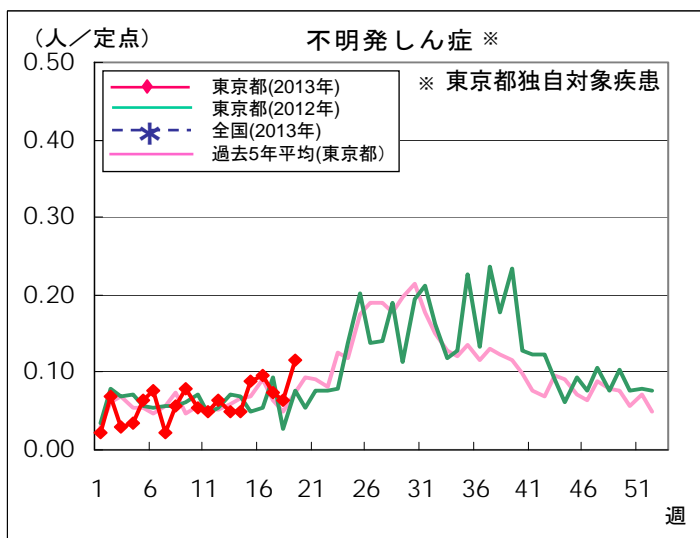
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田	1			3							
中央区	1			7		1					
みなと				3							
新宿区		1		4							
文京				3		1					
台東				7							
墨田区	1			13							
江東区			3	20		1					
品川区				3							
目黒区				2		1					
大田区	2	1	4	10		3					
世田谷			3	25		2					
渋谷区				1						2	
中野区				2							
杉並	6			4							
池袋	1			2							
北区				7							
荒川区		1	1	12							
板橋区	1			8		1					
練馬区	6		3	6		1					
足立	1		1	22		4					
葛飾区	2		1	16					1		
江戸川	4	1		3		1					
八王子市	7		5	11					1		
町田市	2		2	3							
西多摩	4			6		1					
南多摩	5			5							
多摩立川	3		1	7							
多摩府中	4		4	29							
多摩小平	1		2	19				1	2		1
島しょ											
東京都合計	52	4	30	263		17		1	4	2	1

# 定点把握対象疾患 週別報告数(2013年19週 現在)

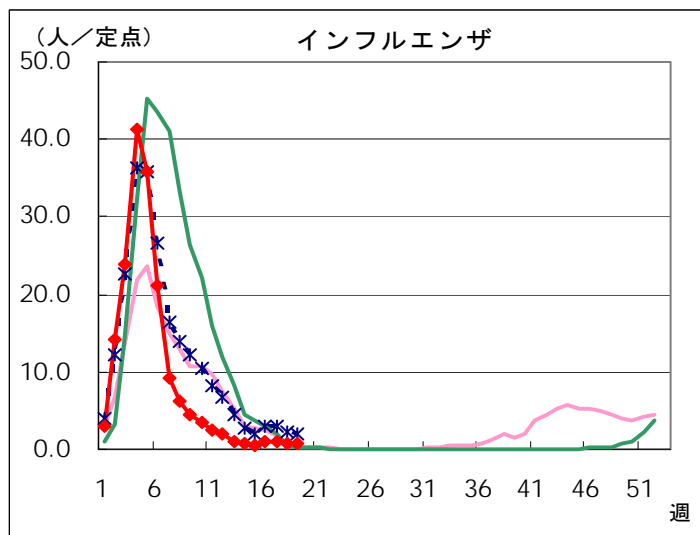
## ◆ 小児科定点



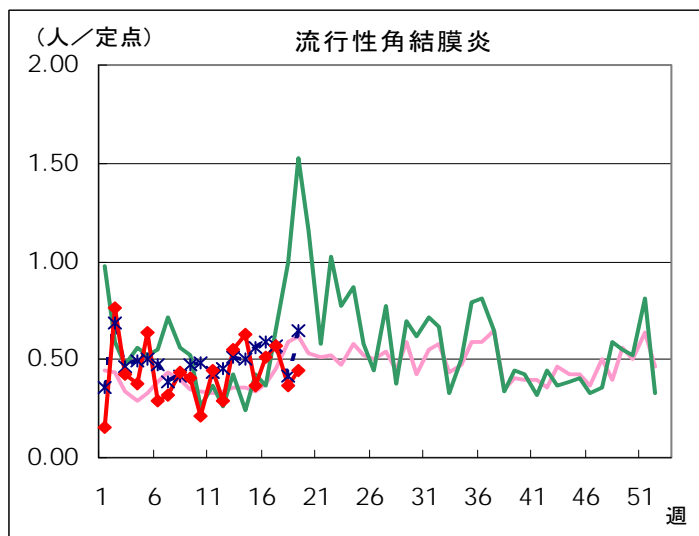
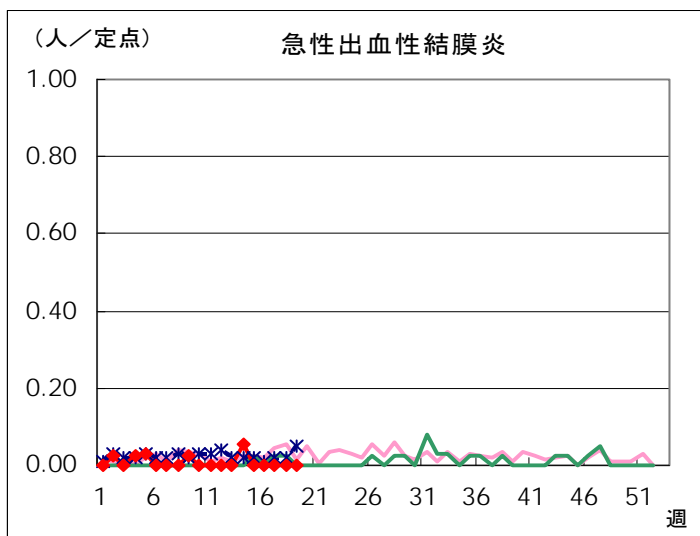




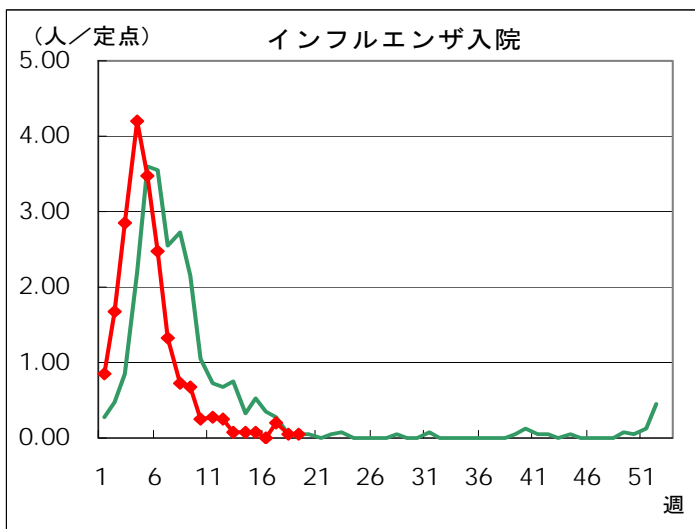
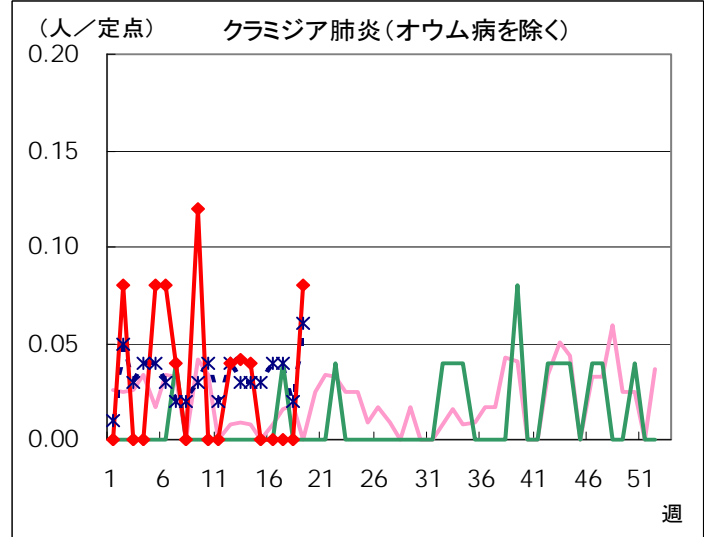
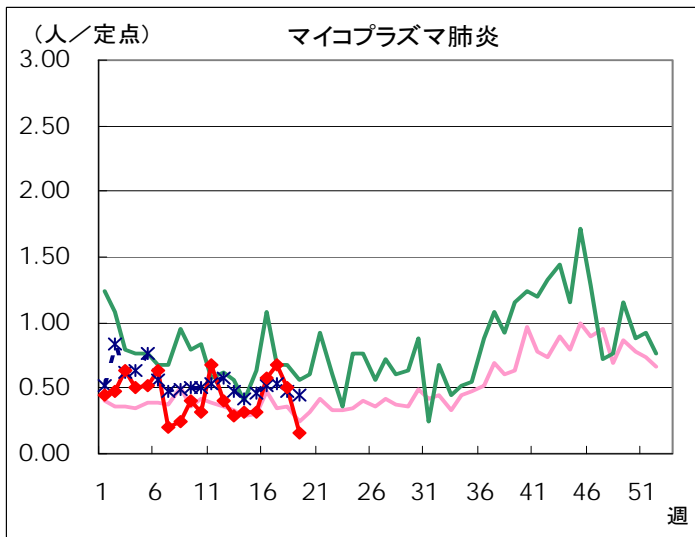
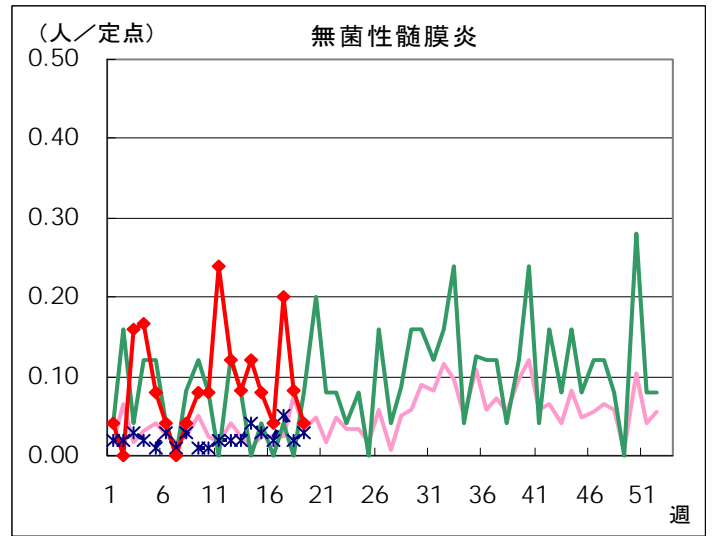
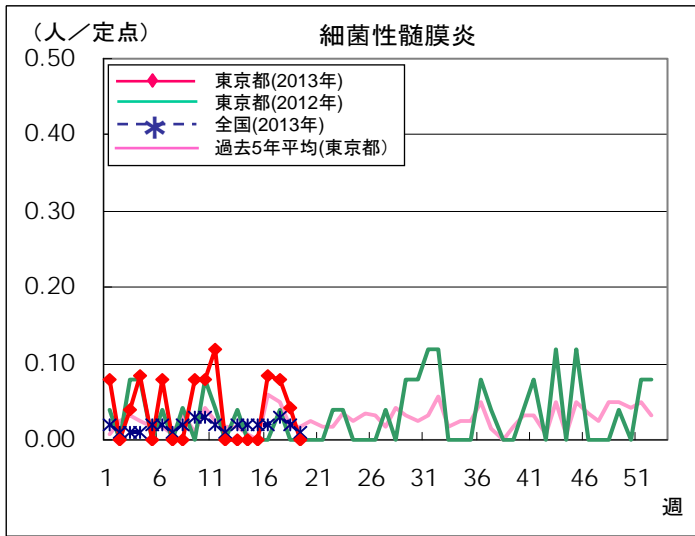
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
みなと		3		2	
台東		5		2	
墨田区		6		3	
江東区	6	7		8	
品川区		1		1	
目黒区		2		1	
大田区		2		2	
世田谷	2	17	2	8	・ 家族の乳幼児から母親に感染。
渋谷区		1		1	
中野区		2		2	
池袋		1		1	
北区		5		3	
荒川区	1	7		4	
練馬区		3		3	
葛飾区	1	14	1	3	
八王子市		10		6	
南多摩	1	1	3	3	
多摩立川		1		1	
多摩府中	2	4		3	
多摩小平	1	10		5	
総計	14	102	6	62	

\* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/23	不明発しん症	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	遺伝子
4/26	突発発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/24	肺炎	2	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
4/27	マイコプラズマ肺炎	5	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
4/26	扁桃炎	6	咽頭拭い液	ライノウイルス	
4/26	マイコプラズマ肺炎	6	咽頭拭い液	ライノウイルス	
4/30	髄膜炎	7	髄液	エンテロウイルス ムンプスウイルス	
4/25	急性気管支炎	16	咽頭拭い液	ライノウイルス	
4/26	無菌性髄膜炎	24	髄液	水痘帯状疱疹しんウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
18週				3
2012-2013年 シーズン累計**	2		241	47

\* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

\*\* 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週
ウイルス	アデノウイルス	1	1	2	1	6	4	2	
	ライノウイルス	5	2	2	2	6	7	3	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	3			2	2	1	1	1
	単純ヘルペスウイルス		2			1			
	水痘・帯状疱疹ウイルス	1				2		3	1
	ヘルペスウイルス6/7	5	2	2	2	5	1	6	2
	EBウイルス		1			3		1	
	サイトメガロウイルス	1		1	1			4	
	ムンプスウイルス	1	2	5		1		1	1
	麻疹ウイルス	1		1					
	風疹ウイルス	4		3		2	3		
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス	1	1	1					
	ノロウイルス	1	1	1		1			
	ロタウイルス	1	3		1	2	2	1	
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	7	3	2	2	5		3	
	インフルエンザウイルスB	1	3	4	4	3	3	5	3
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)	1		1						
その他のウイルス	7	9	4	2	4	6	2	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年11週～2013年18週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		52	33	45	29	25	4	2	7	1	2	3	24	8	9		12	75	
ウ イ ル ス	アデノウイルス	2	5	1			1		6					1				1	
	ライノウイルス		4	10							1	1	2		1		1	10	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス	2	1			1				1			2						3
	単純ヘルペスウイルス					1								1					1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス					1									6				
	ヘルペスウイルス6/7			1							1		5		1		1		16
	EBウイルス		2											3					
	サイトメガロウイルス		1			1								2					3
	ムンプスウイルス					5									6				
	麻しんウイルス													1					1
	風しんウイルス													4				7	1
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス			3															
	ノロウイルス				4														
	ロタウイルス	1			7														2
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	21	1																	
インフルエンザウイルスB	24	1	1																
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																		2	
その他のウイルス	1	4	22	5			1						1					2	
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

## 月報告 定点把握対象疾患 報告数 2013年4月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	118	2.15	201	3.65	55	55
		女	83	1.51				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	60	1.09	86	1.56		
		女	26	0.47				
	尖圭コンジローマ	男	53	0.96	73	1.33		
		女	20	0.36				
	淋菌感染症	男	65	1.18	76	1.38		
		女	11	0.20				
	膣トリコモナス症 *1	男	1	0.02	10	0.18		
		女	9	0.16				
梅毒様疾患	男	15	0.27	15	0.27			
	女							
基幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	40	1.60	67	2.68	25	25
		女	27	1.08				
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	34	1.36	58	2.32		
		女	24	0.96				
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男						
		女						
	薬剤耐性 アシネトバクター感染症 *2	男						
		女						

2013/5/15

\*1 性感染症定点から報告される『膣トリコモナス症』とは、原虫の一種である膣トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膣、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

\*2 2011年2月1日より新たに指定された。

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】2013年4月

男										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							5	3		
1～4歳							2	8		
5～9歳							2	1		
10～14歳										
15～19歳	2									
20～24歳	16	4	3	9		1				
25～29歳	21	7	7	25		1				
30～34歳	30	3	15	12		1				
35～39歳	18	8	9	6		6				
40～44歳	9	11	6	5		4	1	1		
45～49歳	10	12	7	3		1	3			
50～54歳	1	4	4	1		1	1	2		
55～59歳	6	3	1	1			4			
60～64歳	4	3		1	1		1	1		
65～69歳	1	3	1				6	3		
70歳～		2		2			15	15		
合計	118	60	53	65	1	15	40	34		
先月数	123	73	66	83		15	37	15		
増減数	-5	-13	-13	-18	1		3	19		

女										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							1	1		
1～4歳							5	7		
5～9歳							2			
10～14歳	1						2			
15～19歳	6	2	1	2	1					
20～24歳	20	5	7	3	1		1			
25～29歳	29	7	6	1	3					
30～34歳	11	4	3	3				1		
35～39歳	10	1	2		1		2	2		
40～44歳	4	2	1				2			
45～49歳	2	2		2	1					
50～54歳		1						1		
55～59歳								1		
60～64歳					1			1		
65～69歳							1	3		
70歳～		2			1		11	7		
合計	83	26	20	11	9		27	24		
先月数	75	36	22	16	12		19	4		
増減数	8	-10	-2	-5	-3		8	20		

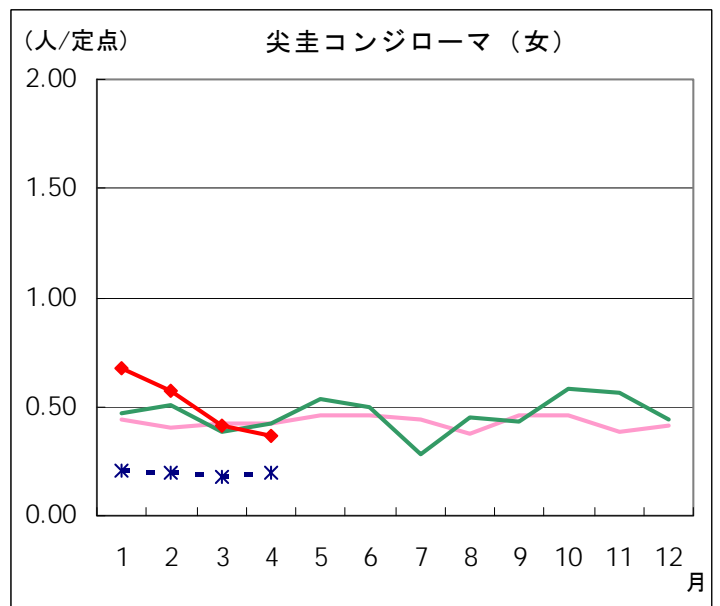
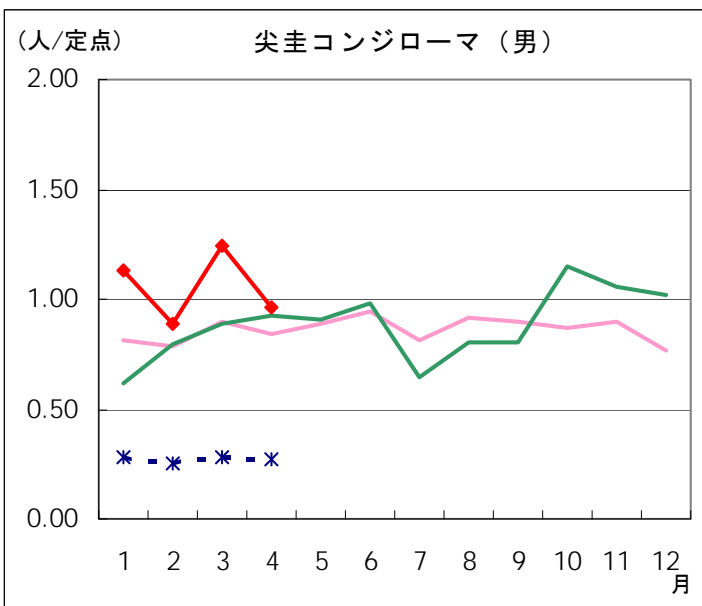
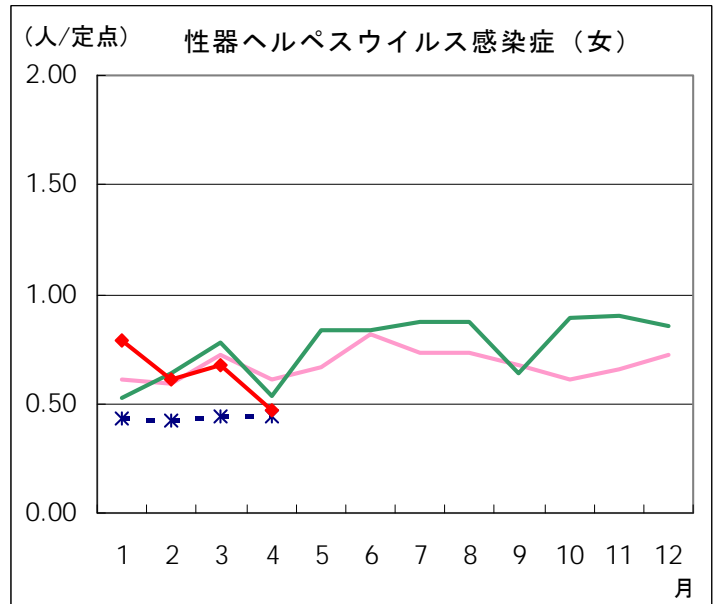
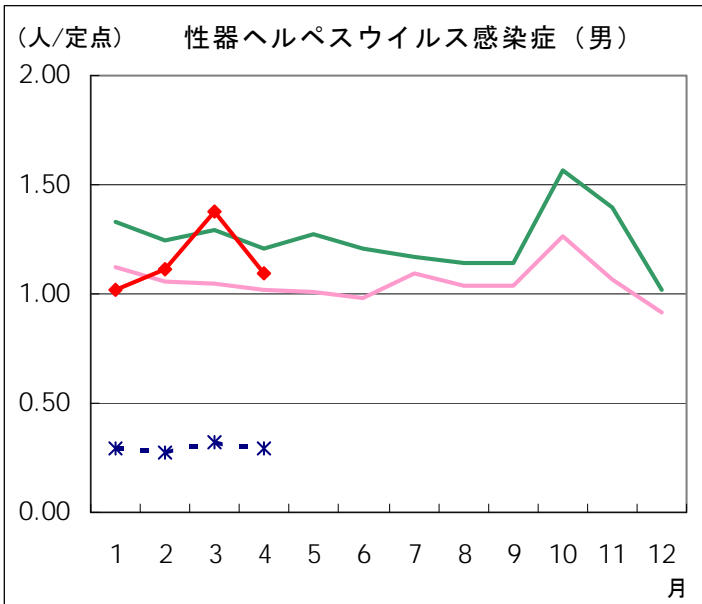
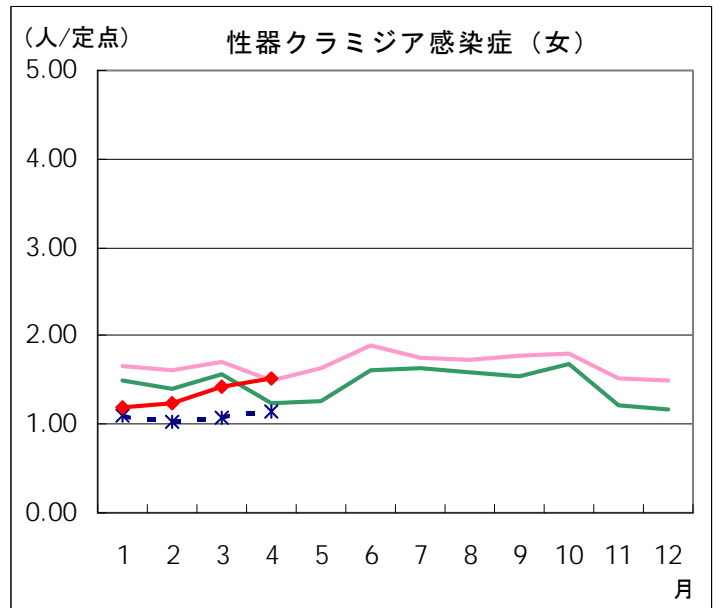
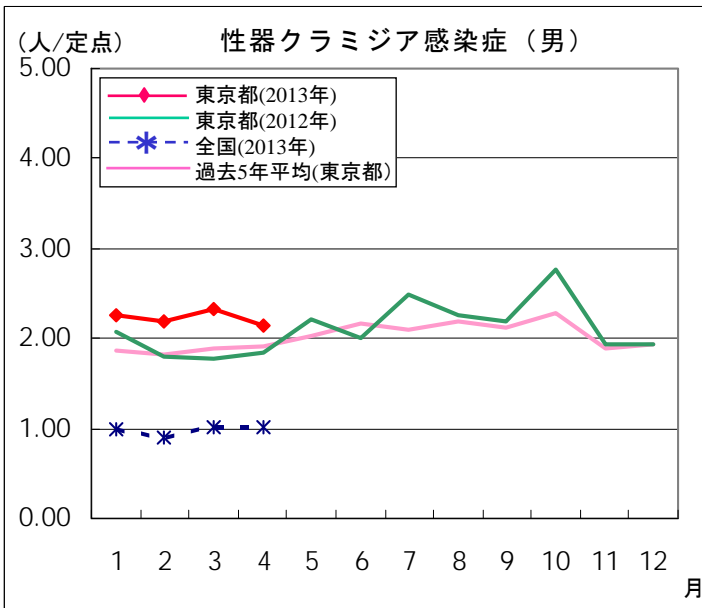
## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2013年4月

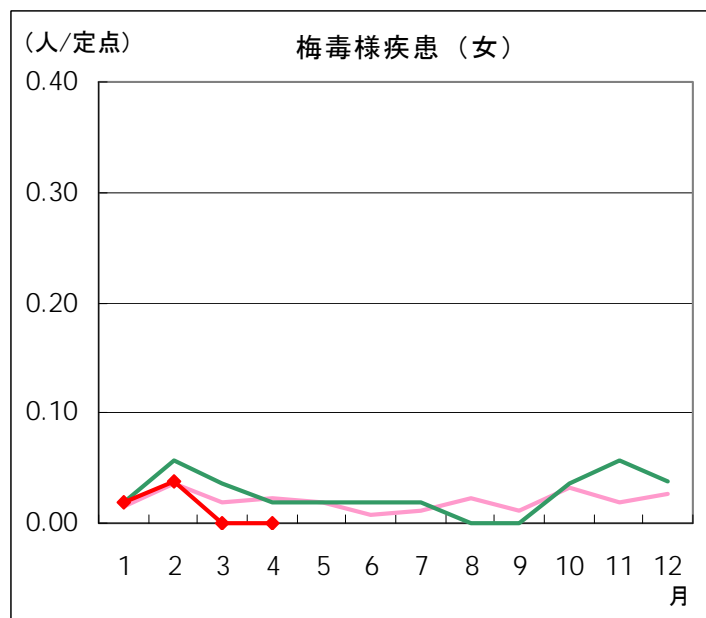
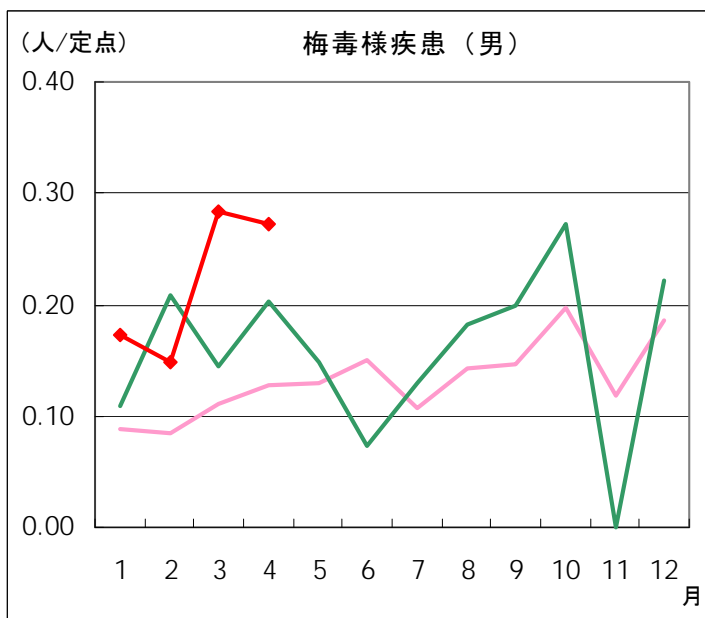
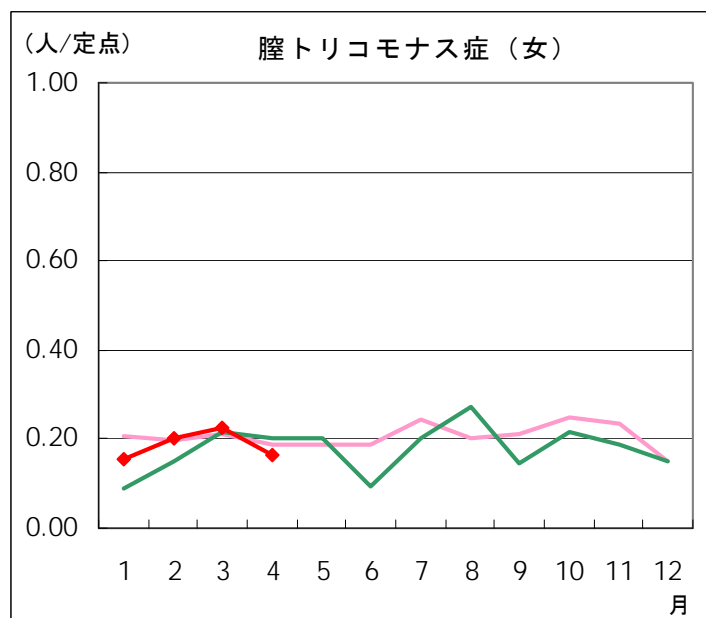
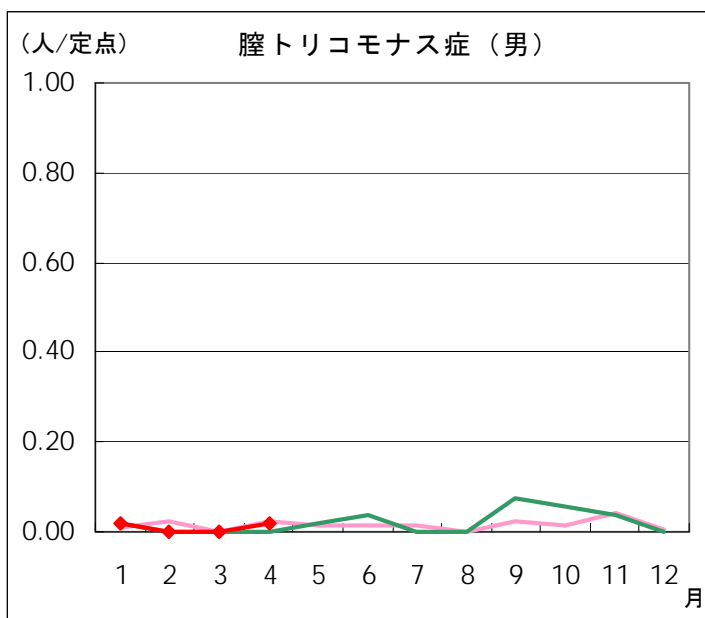
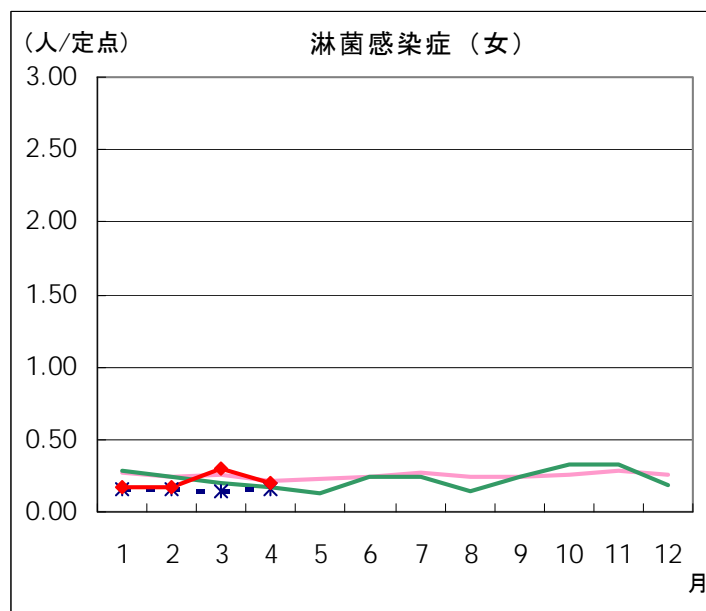
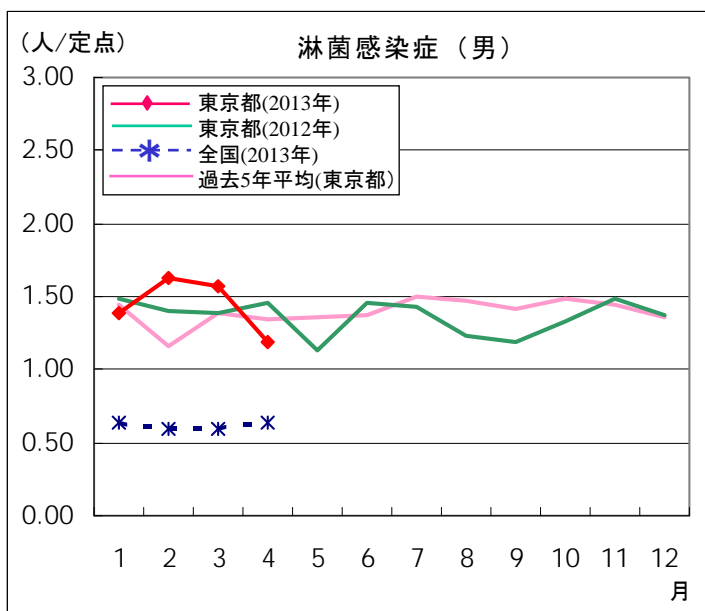
男								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	14	2	3	8		5	32
中央区	3	15	2	1	3			21
みなと	2	11	28	11	11			61
新宿区	7	15	10	20	15		9	69
文京	1	5	4		2			11
台東	2							
墨田区	2	2			1			3
江東区	2	13	2	4	5			24
品川区	1	4	3	2	4			13
大田区	2	3			2			5
渋谷区	5	9	2	2	3	1		17
中野区	2	1	2	1	2			6
杉並	2	2			3			5
池袋	3	13	4	7	2		1	27
北区	1	1						1
荒川区	1							
板橋区	2	2		1	2			5
足立	2	3			1			4
江戸川	2	2			1			3
八王子市	4							
町田市	1							
多摩立川	2	2						2
多摩府中	3	1	1	1				3
多摩小平	1							
合 計	55	118	60	53	65	1	15	312
定点当たり		2.15	1.09	0.96	1.18	0.02	0.27	5.67

女								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	1	1	1				3
中央区	3							
みなと	2	3	2	4				9
新宿区	7	9	7	6	6			28
文京	1							
台東	2	1						1
墨田区	2	5		2		1		8
江東区	2					1		1
品川区	1	1						1
大田区	2	8						8
渋谷区	5	5	8	1		2		16
中野区	2			1		3		4
杉並	2				1			1
池袋	3	9	2	3				14
北区	1							
荒川区	1	3	1					4
板橋区	2	1	1					2
足立	2	5	1					6
江戸川	2	6	2	1	2	1		12
八王子市	4	8				1		9
町田市	1	6	1					7
多摩立川	2	12		1	2			15
多摩府中	3							
多摩小平	1							
合 計	55	83	26	20	11	9		149
定点当たり		1.51	0.47	0.36	0.20	0.16		2.71

# 月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2013年4月現在

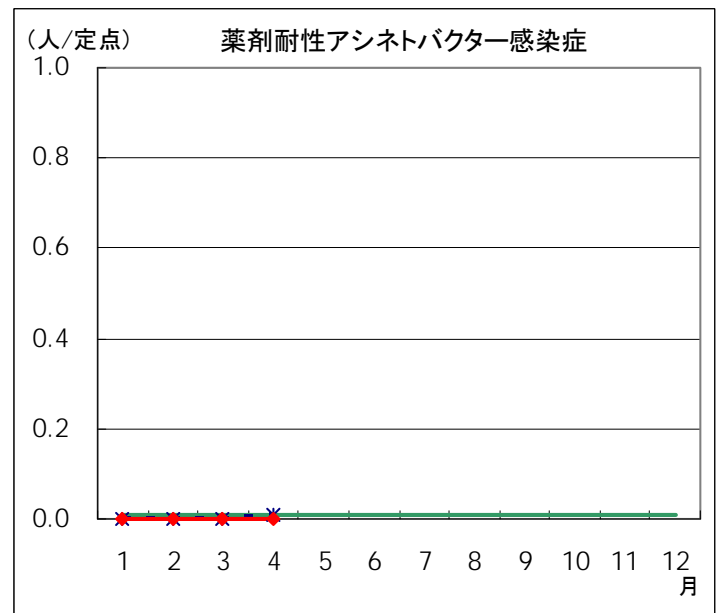
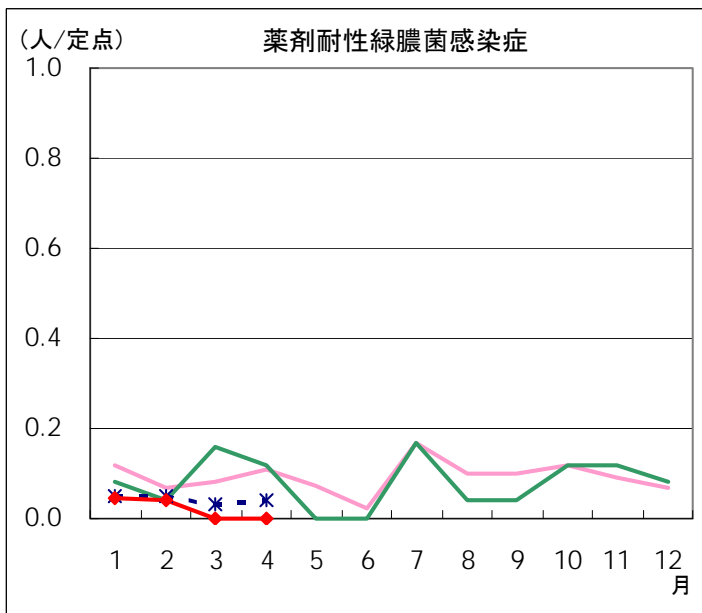
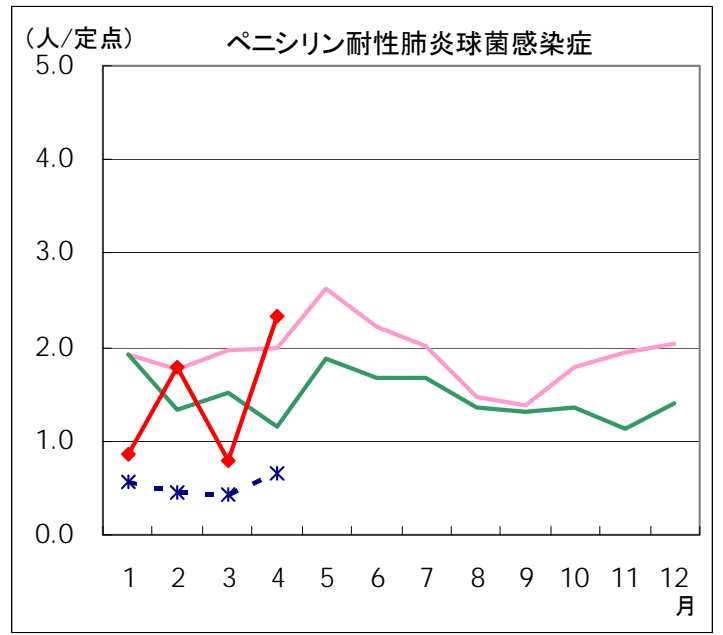
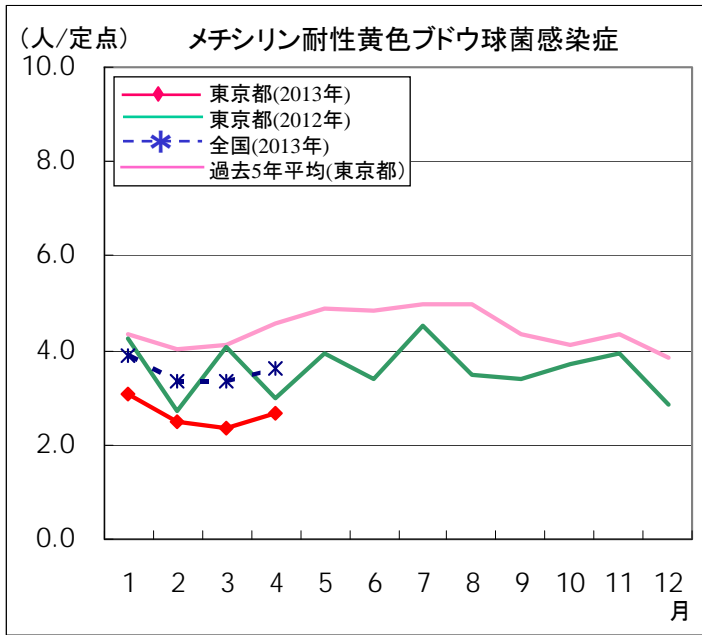
## ◆ 性感染症定点







◆ 基幹定点



## 月報告 病原体検査情報

### ◇病原体検出状況

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
4/26	尿道炎	22	男	尿	クラミジア	遺伝子
4/10	陰茎ヘルペス疑い	24	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	
4/17	尖圭コンジローマ (外陰部)	25	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	
4/22	性器ヘルペス	26	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	
4/3	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	
4/10	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	
4/3	淋菌性尿道炎	27	男	尿	淋菌	
4/26	尿道炎	29	男	尿	クラミジア	
4/10	尿道炎	31	男	尿	クラミジア	
4/10	陰茎コンジローマ	32	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/1	尖圭コンジローマ	32	女	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/17	尿道炎	33	男	尿	クラミジア	
4/17	尿道炎	37	男	尿	クラミジア	
4/10	陰茎コンジローマ	38	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	
4/17	尿道炎 コンジローマ	39	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/17	淋菌性尿道炎	39	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌 ナイセリア属	遺伝子 分離同定
4/24	尿道炎	40	男	尿	クラミジア	遺伝子
4/10	陰茎コンジローマ疑い	43	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	
					ヒトパピローマウイルス 31型	
					ヒトパピローマウイルス 70型	
4/3	淋菌性尿道炎	44	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
4/10	尿道炎	48	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌 クラミジア ナイセリア属	
4/1	性器ヘルペス疑い	49	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 2型	遺伝子
4/24	尿道炎	56	男	尿	クラミジア	
4/3	淋菌性尿道炎	61	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
4/10	淋菌性尿道炎	75	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
4/24	陰茎ヘルペス	79	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子

## <感染症豆知識>

### ウエストナイル熱

ウエストナイル熱は蚊が媒介するウイルス性の急性熱性感染症で脳炎に移行することがある。原因のウエストナイルウイルス(WNV)はフラビウイルス科フラビウイルス属に属し、日本脳炎ウイルスと極めて近縁である。

WNVは1937年に初めてウガンダで分離され、アフリカ、中東、西アジア、オーストラリアなどの地域で流行していたが、1999年8月にニューヨーク市で人の患者発生と平行してカラスなどの鳥類の死亡、さらに馬でも死亡例が確認されて以来、注目を集めた。米国における流行では従来のWNV感染と異なり、感染鳥の発病や死亡、馬と人における流行、そして重篤な脳炎症状の患者が発生した。現在も北米での流行が継続拡大している。

主要な感染環は蚊と鳥の間で形成され、人と馬はウイルス感染蚊(イエカ、ヤブカ等)の吸血により感染し一部が発症する。最近では輸血を介した人の感染、臓器移植による感染等の報告がある。通常、人から人への感染はない。

潜伏期間は感染後3～15日で感染者の多くは不顕性感染で推移するが、20%ほどの感染者が発症、発熱・頭痛・筋肉痛など、また発疹やリンパ節の腫れが見られる。通常1週間程度で回復するが、重篤な症状は主に高齢者に多く、髄膜炎・脳炎症状が感染者の1%程度が呈する。致命率は3～15%とされる。感染した馬も人と同様の経過をたどる。

診断ではRT-PCR法によるウイルスRNAの検出が優れ、血清診断では中和試験が最も特異的である。本症の治療は対症療法が中心である。馬では不活化ワクチンが使用されているが、ヒト用のワクチンはまだ実用化されていない。

予防は蚊にさされない対策が第一で、殺虫剤、忌避剤等の使用、また網戸や長袖・長ズボンを着用等により蚊との接触を防ぐ。蚊は少量の水溜まりにも卵を産みつけるので、蚊の繁殖環境(雨水マス、放置タイヤ等の溜まり水)を排除する。

(文責 NPO 法人日本パストツール協会副会長 池田忠生)